



動物は、汗をかくの

体温が変わらない動物は、ふつう、汗をかく

カエルやチョウなど、外の気温によって、体温が変わる変温動物は、寒くなると動けなくなります。これにたいして、人間や、ウマ、サルなど、ほ乳類は、気温に関係なく体温が一定で、いつも活動できます。ふつう、体温が変わらない定温動物は、汗をかくといえます。汗をかくことで、体温が上がるのを防いでいるのです。体の表面から、汗が蒸発するとき、まわりの熱をうばって、冷やしてくれます。

汗をかけない、ほ乳類動物もいる

ところが、汗を出す「汗腺」が、ほとんどない動物もいます。

クジラの仲間は、ほ乳類ですが、汗腺がないため、汗をかきません。イヌやネコの仲間も、足のうらに少し汗をかくぐらいです。かわりに、イヌなどは、ハッハッと息を出しながら、口からぬれた舌を出し、よだれが汗のかわりをしています。ウサギは、長い耳の、内側の毛があまり生えていない部分が、体温調節に役立っています。敵からにげるときなど、耳を立ててすごい速力で走るので、耳に風があたり、体の熱を冷やしてくれます。トリの仲間は、汗腺がなく、口をあけたりして体を冷やします。

病気のときの熱は、体を守る

かぜをひいたりすると、熱が出て体温が上がります。体内のかぜのウイルスなど、病気の原因である悪い生物は、高熱に弱いので、体が高温になれば弱ります。つまり、熱が出るということは、体が、ウイルスなどをやっつけるために、戦っているようです。

(監修・今泉 忠明)

